平成 1 6 年度 「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書 プロジェクトチームの代表者 部・講座等名: 実技教育研究指導センター

	E	.	名	兼 重	. 昇
プロジェクトの名称		配分 予算 額	1	16000	0 円
プロジェクトの概要	本る員、どのでとして、 を でとし楽実ののでは、 を でとし楽実ののでは、 を でとし楽実ののでは、 を でとし楽実ののでは、 を でとし楽まののでは、 を でとし楽まのが、と)に容、 手間がいた、 はがて、持育の践な学技「を具動でといっが演れ図的察いのまいの実」上。 でとし楽まのが校析で削るるはの手がした。 でとし楽まのが校析で削るののすがした。 でとし来まのが校析で削るののまがした。 でとし来まのがでがででは、 はがで、持有間ののでは、 でとし来まののでは、 でとし来まののでは、 を でとし来まのののまがした。 でとし来まのがでがでが、 を でとし来まのがでがでいた。 はがのら に附1)でとのまいのでは、 でとし来まののでは、 に附1)でとのできるに、 でとし来まのがでがでいた。 でとし来まのののができまいた。 を でとし来まのののまがした。 はのののでは、 に関1)でとのでといれ、 はのでといまでは、 でとし来までがした。 でとし来まのののまがした。 はいいたいないない。 はいいないないないないないないないないないないないないないないないないないない	力究領一,のェをでらと()と指域ドこかク成,かそ教し。	『) こ・ご これでせ体をしつでさどしに実ン育設たいはせの,基習	タ,定実で,るよ彼づ)一美し技,実のうらくにで術実能超技になの指おは(技力教教必指実導け	て でしているできる。 、図能・科育要導技方る、小画力実的のな技能法実学工の技に立様術力の際校作向指実場々を及改の
	1 : 実	教 級よ 基討び官 のる にすグの 児授 分るレ	おり 見受いい おり 見い おり に評していました ド	内 9 価 , り 個 , り 個 の 分 者 討 の 検 討	引録する。 へらなる形が っ f の 授業 評 値
成果の概要	作用について検討する。 < 体育分野の場合 > 実技能力育成論受講者(3名) な教育実習における体育授業の比較分析受講者の教師行動の特徴: 「マネジメント行動が有意に少なく相互作用行動が・フィードバック行動動(19.8%)(c.f.未受講者: 7・肯定的フィードバック(3.0%)(c.f.未受講者: 6・矯正的フィードバック(16.7%)(c.f.未受講者: 6	と 未 受 が 有 意 7 . 1 %)) . 3 %)	講者	(3名)	. 0 0 11 3
	< 美術(図画工作)分野の場合>4授業を記録し分実技能力の再定義が必要,うまくつくれる(描ける図画工作・美術科専攻学生でも「造形遊び」「つる指導は困難,多様化する造形素材を扱った経験の場よりも幅広い経験 >入念な教材研究と素材経験の必要性 >グレーリ>模擬授業の相互観察,リフレクション	る) く り た 豊 か さ	いもが重	の を つ く 要 = 高 い	る」活動の
	<言語(英語)分野の場合>グレードAの指標としてのTOEIC IPの結果と小学校て8実習生の授業を記録し,教師行動を観察(但しグレードAとの関連性は,教師発話・発問について教室英語の正確さ,即興性という点で上位者の方がその他,授業での発問,訂正の発言に関しては,写く柔軟であった。	し 質 的 は 違 が 柔 軟	」に記 いがす てな対	述) あまり見 応ができ	られないが :る。
	<まとめと課題> 各実技の専門性と授業実践には,高い相関があるとは言い 負し、英語の場合「正とさ」という意味での差異はみられるである。実技能力育成論の重要性が全ての分野で指摘,教科種々の教科の共通性と相違についても広い経験が必要,模協これからの課題:今回授業記録の困難であった分野の継続的力,実技能力育成論の受講呼びかけ	る < 綿密 斗・分野 疑授 業 † りに 授き	密野や業 教超習録	材研究によえた相互作機会の増か 、中学校の	にる克服も可能 F用のあり方 が必要 D授業と実技能